

2023年5月2日
日本船主協会 企画部

当協会友田副会長 アジア船主協会主催国際海運フォーラムで講演
～持続可能なサプライチェーン確保と船舶脱炭素化に向けた
ステークホルダー間の協働の必要性を強調～

当協会の友田圭司常勤副会長は、4月26日にシンガポールで開催されたアジア船主協会（ASA）主催の国際海運フォーラム（International Shipping Forum）で、「次なる段階の循環経済および持続可能なサプライチェーンに向けた挑戦：アジアの取り組み」と題する講演を行いました。本フォーラムは Singapore Maritime Week 期間の中心的行事である Sea Asia 2023（4月25日～27日）にあわせて“安全と環境保全”を基本テーマとして開催されたものです。

友田副会長は講演の中で、そのテーマに即して、わが国での代替燃料船開発・風力利用船などによる脱炭素化への取り組みや、自律運航船実証実験などの AI/DX 活用の事例を紹介。続いて、過去3年の間に COVID-19 蔓延や政情不安・異常気象等により、未だかつて経験したことのない世界規模の海上輸送網の障害への海運界の対処経験を踏まえ、今後も世界経済の健全な発展に伴う国際海上輸送量の更なる増加が予想される中、改めて切れ目のないサービスの提供の重要性に言及しました。さらに、2050年までの脱炭素化に向けた積極的な取り組みを果たすためには、ステークホルダーとの協働が不可欠と強調。その上で、アジアには海運、造船、解撤および船員供給の分野で主要国が集まっており、ステークホルダー間で時差のない円滑なコミュニケーションが可能となる地理的優位性を指摘するとともに、ASAとしてもその地理的優位性を活かし、“安全と環境保全”などの海運事業運営の軸となる課題を念頭に、常設委員会間の協働を強化してアジア船主の声の積極的な発信に取り組んでいる事を紹介しました（友田副会長は ASA の常設委員会の一つである海運政策委員会（SPC）委員長に就任しています）。また、AIの積極的な活用が進む新たな潮流の中にあっても、今後とも円滑な事業運営を果たす鍵は人材にあるとして、次世代の若者たちに当業界の魅力を伝える必要性を指摘。英国とともに国際海運の情報集約機能を有し、脱炭素化社会構築に向けて海運・港湾分野で先進的な取り組みを試みているシンガポールがその次世代育成の場として積極的に環境整備がなされ、その役割を果たしていく事への期待を示しました。

なお、同フォーラムでは、シンガポール海事港湾庁のテオ長官が開会の挨拶で海事分野に

における共通の繁栄、相互信頼・協力を強調、続いて、国際海事機関のキータックリム事務局長が、船舶の脱炭素化に向けた IMO の国際規制策定における業界の積極的な関与を求めました。また、海運業界からは友田副会長の他に、国際海運会議所（ICS）のガイ・プラトゥン事務局長が講演をし、脱炭素化に向けた ICS の 3 つの取り組み（①ファンド&リワード（注 1）、②クリーン・エナジー・マリーン・ハブ・イニチアチブ（注 2）、③マリタイム・ジャスト・トランジション（注 3））を紹介しました。

以上

注 1：船舶からの CO2 排出量削減に向けた代替燃料への転換促進策として、CO2 排出量 1 トン当たりで定額を徴収し、その基金から途上国のグリーンエネルギー供給の整備や、低排出／ゼロ排出燃料を使用する船舶に対する報酬を提供する仕組みを IMO に提案。

<https://www.ics-shipping.org/press-release/the-international-chamber-of-shipping-reaffirms-commitment-to-2050-net-zero/>

注 2：ICS や国際港湾協会（IAPH）等が主導する、低炭素燃料の生産・船舶輸送・使用を促進する目的の官民プラットフォーム。本プラットフォームには政府、港湾、海運、金融、エネルギー関係者が参画し、脱炭素化プロジェクトに関する情報や知見の共有を通じ、投資リスクの軽減や、代替燃料の商業的展開の加速化を図る。

注 3：次世代燃料船乗組員に求められる要件とその実現に向けたアクションプランを ICS 含む関係者間で検討。詳細は以下ご参照。

<https://www.ics-shipping.org/representing-shipping/maritime-just-transition-task-force/>



講演をする友田副会長



← ISF 紹介資料（友田副会長）

友田副会長のプレゼン資料の一部



Collaboration behind the Paradigm Shift - Strength of Asia -

Why is the role of Asia getting more critical than ever for the revolutionary change?

- **Asian shipowners**, controlling about 50% of the world merchant fleet, have accumulated know-how on operating wide range of different vessels.
- Fields of shipbuilding, ship recycling as well as seafarers supply have been occupied with major Asian countries.



Remote communication cannot replace a face-to-face one.



IMO 事務局長と握手する
友田副会長